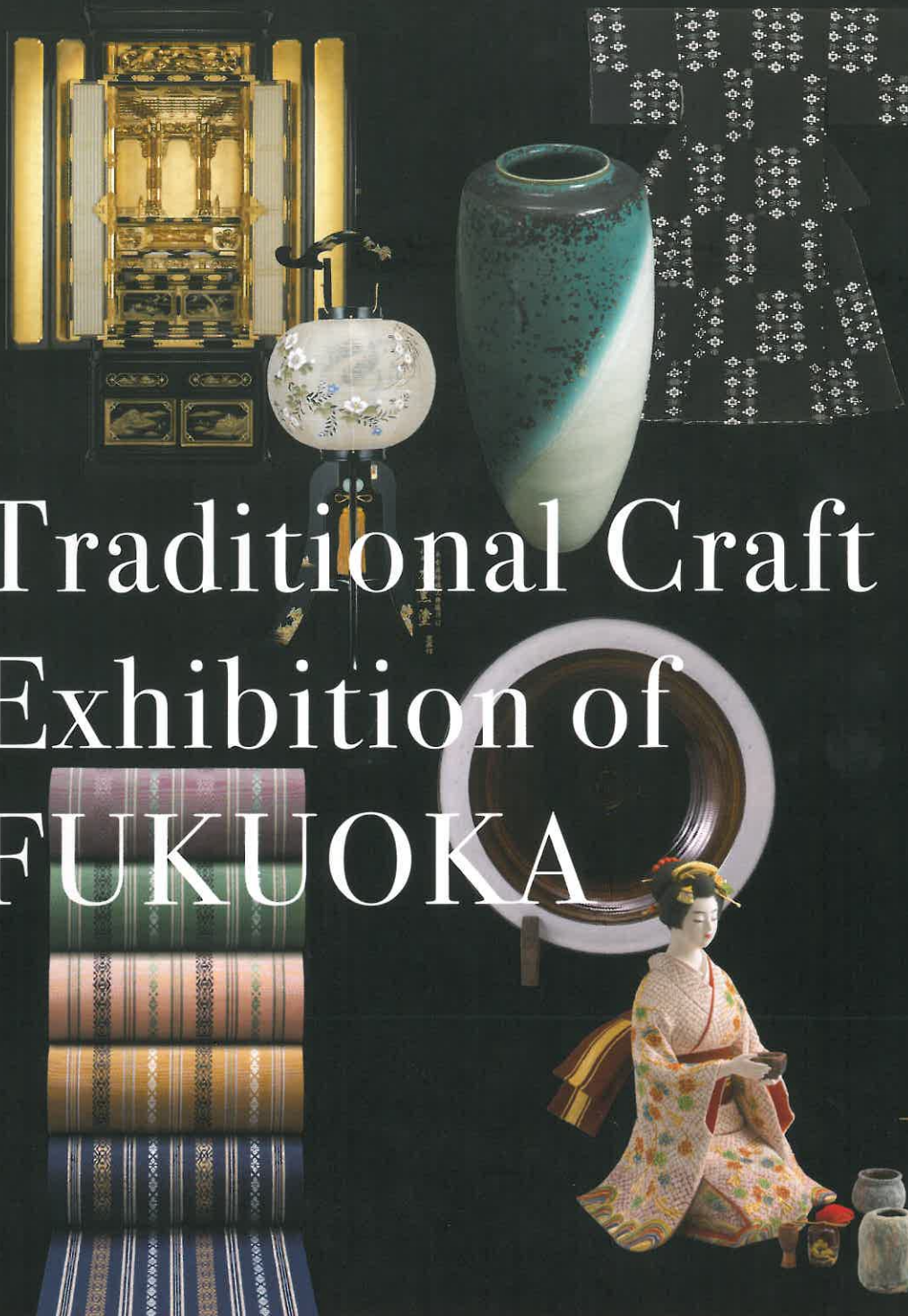


第36回福岡県 伝統的工芸品展



Traditional Craft Exhibition of FUKUOKA



◎開催日時

平成24年9月19日(水)～23日(日)

午前10時～午後6時、最終日は午後5時

◎開催会場

アクロス福岡 福岡市中央区天神1丁目1-1

2階 交流ギャラリー (作品展示・販売コーナー)

1階 円形ホール (実演体験)

博多祇園山笠の真髄に迫る!講演会開催。

博多祇園山笠振興会 会長 瀧田喜代三 氏

日時:平成24年9月22日(土)14:00～14:30 会場:交流ギャラリー

テーマ:「博多祇園山笠を支える伝統的工芸品」



入場・体験
無料

■主催 福岡県、福岡県伝統的工芸品振興協議会、アクロス福岡出展協議会、九州電力株式会社福岡支社

■共催 公益財団法人アクロス福岡

■後援 九州経済産業局、福岡県教育委員会、福岡市、久留米市、八女市、筑後市、広川町、福智町、東峰村、福岡県中小企業団体中央会、福岡県商工会議所連合会、福岡県商工会連合会、株式会社商工組合中央金庫、一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会、西日本新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社西部支社、NHK福岡放送局、九州朝日放送、RKB毎日放送、TNCテレビ西日本、FBS福岡放送、TVQ九州放送、公益社団法人福岡県物産振興会、社団法人福岡県観光連盟、財団法人八女伝統工芸館

時を超えて～受け継がれる心と技～

日本の風土と歴史の中で育まれてきた伝統的工芸品の数々は、長く日本人の暮らしに密着した生活用品でした。日常用いる実用品だからこそ、愛着のあるもの、安らぎを感じられるもの、潤いをもたらすものをもとめずにはいられないのではないでしょうか。この工芸品展は、県内の伝統的工芸品7産地のより秀れた作品を一堂に展示し、伝統工芸品の良さを皆様にご紹介するものです。真心をこめてつくりだされた“癒し”の文化を堪能してください。

現代に生きる伝統の美しさ

博多人形

「博多にくるときゃ一人て来たが帰りが人形と二人づれ」と正調博多節に歌われ、人々に愛され続けてきた博多人形は日本はもとより世界の人々までを魅了しています。伝統的な技は白くてきめの細かい肌合いを作りだし、人形師の魂が人形に永遠の命を吹き込んでいます。



味わい深い民芸美の極致

小石原焼

おおらかで、素朴で味わい深い小石原焼は四百年の歴史を持ち、飛龍、刷毛目紋、櫛目、と大胆な打ち掛けや流し釉という素朴な特長を持っており、庶民の暮らしをささえる、用の美を追求した陶器として、人々に愛され続けています。



遠州七窯の品格ある器

上野焼

上野焼は約四百年前、豊前藩主細川忠興が李朝陶工尊楷(そんかい)を招いて開窯したのが始まりで、その後、日本三大茶人の一人小堀遠州推奨の遠州七窯として発展してきました。上品な薄作りが多く、独特な緑青色をはじめ灰釉、銅釉、鉄釉を駆使した豊かな色彩が特長です。最近では、日常使われる普段使いの器も多く作られています。



七百七十年の技が紡ぐ縁結び

博多織

粋で繊細、華美で独特の張りがある博多織。「博多帯締め、筑前しほり、歩む姿が柳腰」と正調博多節に歌われており福岡を代表する伝統的工芸品。それは七百七十年余の昔から多くの人を魅了し、受け継がれています。



素朴と洗練の味わい

久留米かすり

久留米絨は、厳選された天然藍で染め上げられた、洗って強い木綿絨で、紺絨の最高の風格と技術、そして素朴で健康的なぬくもりを持っています。その大きな特長は「くくり」にあります。所々かすれたように見える美しい模様が久留米絨の特長です。



熟練の職人の技が光る

八女福島仏壇

幕末(文政年間)頃から作られ始めた八女福島仏壇は、荘厳華麗な仏殿楼閣を思わせる漆塗りの金箔仏壇で、他の産地にはない独創的なものです。また、豊かな自然から生み出される良質な素材と、職人の高度な技術、豊富な経験によって作り出されています。



情緒味にあふれた灯り

八女提灯

すぐれた手すき紙と高級絹に手描きされた風雅な提灯で、住吉、御殿丸、行灯、回転灯など種類も多い八女提灯は、全国一の生産を誇っています。桔梗やススキなどを描いた盆提灯が主流ですが、新しい感覚を取り入れた提灯も人気を集めています。



1階・円形ホール 実演・体験コーナー



体験
無料

あなたの手で「伝統」を作ろう!
職人さんから直接教わりながらの
制作体験ができます。

福岡県伝統的工芸品振興協議会

福岡市博多区吉塚本町9番15号 TEL092-622-8780 FAX092-622-6884